

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(平成27年4月解析分)

1 今月のトピックス

(1) 海外で注意すべき感染症について

海外に渡航される方は、健康で快適な旅行にさせていただくため、次表にあるような感染症に対する注意（予防）が必要です。

主な感染源	主な感染症	主な発生地域	主な症状	予防接種	予防策
食べ物 水	B型肝炎	世界各地	発熱、倦怠感、黄疸		十分火の通った食べ物を食べる 生水は飲まないようにする
	A型肝炎	発展途上国地域	発熱、倦怠感、黄疸	○	
	赤痢		発熱、下痢、腹痛		
	腸チフス		持続する高熱、下痢、倦怠感		
	コレラ		大量の水様便、嘔吐、脱水症状		
蚊	マラリア	熱帯	周期的高熱、悪寒、冷汗	予防薬	虫除けローションの使用 長袖・長ズボンの着用
	デング熱	亜熱帯地域	高熱、筋肉・関節痛、発疹、目の痛み		
	日本脳炎	アジア	高熱、昏睡、意識障害、頭痛	○	
	黄熱	アフリカ 南アメリカ	高熱、頭痛、筋肉痛、悪寒、嘔吐	○	
	ウエストナイル熱	北アメリカ アフリカ 中東アジア	発熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感		
	チクングニア熱	東南アジア 南アジア アフリカ	高熱、頭痛、筋肉・関節痛、倦怠感、発疹、関節腫脹		
動物	狂犬病	世界各地	発熱、治癒した受傷部の痛み、知覚過敏、怖水・怖風症状	○	みやみに動物に触らない 犬等の咬傷を受傷後の予防注射
	鳥インフルエンザ	東南アジア	発熱、呼吸器症状		鳥類との接触を避ける 手洗い、うがいの励行

出発前に渡航先の流行状況等に関する情報を入手しておくことは非常に大切です。詳しい情報は、厚生労働省検疫所ホームページや外務省海外安全ホームページなどを御覧ください。

(2) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)について

流行性耳下腺炎の定点医療機関からの患者報告数が増加しています。本県では平成26年当初から全国と比較して、報告数が多い状況が続いています。今後の動向に注意してください。

病原体	ムンプスウイルス
症状	上気道を介して飛沫感染し潜伏期は2～3週間とされいます。 両側又は片側の耳下腺(耳の下あたり)が腫れ、ものを噛むときに顎に痛みを訴えることが多く、このとき数日の発熱を伴います。また、耳下腺に発赤が認められますが、膿汁の排泄はなく、1～2週間で軽快します。 合併症としては、無菌髄膜炎、脳炎、膵炎、難聴などがあり、成人男性では睾丸炎、成人女子では卵巣炎がみられることがあります。
感染経路	患者のせきやくしゃみなどからの飛沫により感染します。 ウイルスの感染力は、強いとされていますが、感染しても発病しない(不顕性感染)場合も多くあります。
予防方法	予防接種を受けることが、効果的な予防方法です。しかし、「おたふくかぜ」の予防接種は、任意の接種となりますので、接種を希望される場合は、かかりつけの医療機関に相談してください。 また、次のことにも注意しましょう。 ・『手洗い』と『うがい』を励行しましょう。 ・患者との接触を控えましょう。

※先月の月報(平成27年3月解析分)で二類結核の発生状況について次のとおり保健所名に誤りがありました。(誤)西部東保健所(3) → (正)西部保健所(3)

2 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成27年3月分(平成27年3月2日～平成27年4月5日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	1,863	3.27	10.45	↓	11	ヘルパンギーナ	2	0.01	0.03	
2	RSウイルス感染症	66	0.19	0.40	↘	12	流行性耳下腺炎	229	0.65	0.69	↗
3	咽頭結膜熱	124	0.35	0.50	→	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1063	2.99	2.02	→	14	流行性角結膜炎	48	0.51	0.72	↗
5	感染性胃腸炎	2,846	8.02	9.26	↘	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.02	
6	水痘	93	0.26	1.11	↓	16	無菌性髄膜炎	4	0.04	0.01	
7	手足口病	93	0.26	0.56	→	17	マイコプラズマ肺炎	13	0.12	0.17	↘
8	伝染性紅斑	6	0.02	0.17		18	クラミジア肺炎	1	0.01	0.00	
9	突発性発しん	144	0.41	0.46	→	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	20	0.19	—	↑
10	百日咳	12	0.03	0.05							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成27年3月分(3月1日～3月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	47	2.04	2.33	→	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	87	4.14	5.49	→
21	性器ヘルペスウイルス感染症	19	0.83	0.77	→	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0.43	1.03	
22	尖圭コンジローマ	13	0.57	0.81	↘	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.12	
23	淋菌感染症	16	0.70	1.08	↘						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

●急増疾患 感染性胃腸炎(ロタウイルス)(0.02 → 0.19)

●急減疾患 インフルエンザ(13.82 → 3.27)

●急減疾患 水痘(0.52 → 0.26)

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患,月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	42	結核(42)〔西部保健所(7),西部東保健所(4),東部保健所(8),北部保健所(2),広島市保健所(16),呉市保健所(5)〕
三類	1	腸チフス(1)〔呉市保健所(1)〕
四類	2	つつが虫病(1)〔東部保健所(1)〕,レジオネラ症(1)〔広島市保健所(1)〕
五類全数	14	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2)〔広島市保健所(2)〕,急性脳炎(1)〔福山市保健所(1)〕,クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔呉市保健所(1)〕,梅毒(2)〔広島市保健所(1),西部保健所(1)〕,後天性免疫不全症候群(3)〔広島市保健所(3)〕,侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)〔福山市保健所(1)〕,水痘(1)〔東部保健所(1)〕,劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)〔西部保健所(1),広島市保健所(1)〕,破傷風(1)〔福山市保健所(1)〕